

ガラスびんの  
リサイクルセンターを視察

ACTIVE KUMIAI

山梨県化粧品小売協同組合女性部（渡辺真弓部長）は、中央会の「組合女性部研究会事業」の助成を活用して、9月9日に視察研修会を実施した。

化粧品小売の市場は、ドラッグチェーンやコンビニエンスストア、インターネットなどによる無店舗型の通信販売により若年層を中心に需要は、年々伸長している。

そこで、「地球もお肌も美しく空ビン回収で来店機会を増やそう」と題し、(株)資生堂掛川工場カレットセンターにおいて、環境対応の製品開発や包装を始めとする減量化、資生堂が2001年から開始した自社化粧品の使用済みガラスびんのリサイクルシステムについて学んだ。

日本では、飲料用のガラスびんのリサイクルは進んでいるが、化粧品用のガラスびんのほとんどは埋め立て処分される。化粧品会社によつてガラスの組成が異なり、一定の品質でガラスびんを再生することが困難だが、資生堂では、使用済みガラスびんを自社工場で、手作業でリサイクル可能な部分のみに分別してカレットし、ガラスびんメーカーで加工されて、再び資生堂の化粧品の容器として再利用されている。

工場長は、「課題もあるが、化粧用ガラスびんのリサイクルが循環型社会の仕組みとして定着することを目標に活動を推進していきたい。」と語った。



カレット工程

参加者からは、「自らの意識改革ができた。お客様にも、あえてコストを掛けリサイクルを行うことが、どれだけ大切なことか伝えていきたい。」と口々に感想が寄せられた。



工場長の説明を熱心に聞く参加者